

令和7年度 愛宕小学校学力向上プラン ～チーム愛宕(全職員で)一人も取り残さず子供を伸ばす～

【教育目標】あたたかく たくましい心と体を持ち 互いに学び合う児童の育成 ～よく学びいつも元気でやさしさいっぱい～

【合言葉】「よく学びいつも元気でやさしさいっぱい」よいや!

【めざす児童像】○あたたかい心をもつ優しい子 ○たくましく生きる元気な子 ○互いに学び合う賢い子

【めざす職員像】○子供と共に学び、共に汗を流す教職員(本校の強み) ○人間性が豊かで信頼される教職員(誠実) ○常に課題意識をもち、学び続ける教職員(研修)○心身ともに健康で協力し合う教職員(働き方改革)

【めざす学校像】○子供が行きたい楽しい学校 ○保護者が安心して通わせたい学校 ○地域が応援したい自慢したい学校 ○職員の意欲があふれる働きがいのある学校

【学力調査の結果】

※3・4年生は市の平均、5・6年生は県の平均と比較し、5ポイント以上の差について、有意差(高い・低い)があると判断

3年		4年		5年		6年	
国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
平均	平均	平均	平均	平均	平均	高い	高い

【確かな学力におけるめざす児童の姿】

「分かってほしい」「できるようになりたい」という思いをもち、積極的に聞いたり自分の考えを伝えたりし、すすんで学びに向かう児童

【本校児童の課題】

- 学力調査において、記述の問題の正答率の向上が見られる。書くことに対して主体的に取り組む姿がある。
- 「聴き合い」から自分の考えを広めたり、深めたりすることができるものの、相手意識をもち、「話すこと」、「聞くこと」、「話し合うこと」には課題がある。
  - ・情報と情報の関係を理解したり、結び付けて考えたりすることが苦手。
  - ・家庭学習の取組に個人差があり、個別に支援を要する児童が多い。

【子供の伸ばすための視点】※数値化(赤)

視点	具体的な取組	視点	具体的な取組
1 授業改善	一人も取り残さず、すべての児童が学習の主体者となる授業改善を目指す校内研修 主題:「児童一人ひとりが学習の主体者になる授業改善を目指して～問題解決学習における聴き合いを通して～」 【視点1】協同を必要とする問題についての研究(愛合課題) 【視点2】問題解決学習における学び合いの効果的な位置づけと形態の選択(聴き合い) 【視点3】学んだことを自分の中に再構築するための「振り返り」の研究 研究の柱:①「聴き合う関係」づくり ②「愛合課題」の設定の工夫 ③振り返りの充実 ○全体授業・部会授業における <b>全員授業</b> ○ICTを活用する授業 ○わかる喜びが実感できる授業(R6児童による学校評価94%)	4 基礎基本の徹底	○読書の充実を図る→図書室の活用、学校司書との連携 →年間低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊を目標とする。 ○デジタマ・キュービナの活用(週3回以上) ○愛(I)チャレンジの実施(週1回以上)
		5 特別支援教育の視点	○交流学級担任と特別支援学級担任との連携の強化(1日1回児童の情報交換) ○幼稚園・保育園・中学校との連携、スクールカウンセラーなどの関係機関との連携の強化 ○個別の支援計画と指導計画の作成 ○コグトレの実施(週1回以上)
2 学習規律の徹底	○学習規律における掲示物(ハンドサインによる発表の仕方・振り返り(わがとも)) ○学習用具のチェック表(学期ごとのチェックで3月までに95%そろようようにする。) ○愛宕スタンダード(学習規律)の徹底(学び方の基礎・基本) (児童・教師共に前期・後期2回アンケートを実施し、意識の向上を図る)	6 地域・家庭との連携	○保護者との情報共有の充実 ○家庭と連携した「生活リズムチェックシート」の取組(各学期1回) ○家庭学習の手引き作成・配布(R6保護者による学校評価79%) ○家庭、地域と連携→大人絵がかりでの児童の健全育成(パワーアップ教室・にこにこ教室)
3 学級経営	○日常的な「いのちの教育」、実践の積み重ねによる互いに認め合うことができる「支持的風土がある学級づくり」(道徳科の充実と道徳的実践力の育成) ○児童に自尊感情・自己肯定感や達成感を味わわせる取組と称賛 ○心の天気アンケート実施。必要な児童に対しての個人面談(月1回)	7 生活指導	○5つのあ「あいさつ・あそび・あるきかた・ありがとう・あとかたづけ」の指導の継続・徹底(毎月の生活の目標設定) ○あはは運動の浸透

※各学年の学力向上における課題、取組は別紙